

やさしさ

介護とは、自立を促すこと

山崎高校で地元実践家を招いて授業

山崎高校生活創造科では、デイサービス「ふる里」の責任者田中実さん(56才)による授業を行っています。

これは、同科の科目「地域の生活文化」の中で、地域福祉について理解を深めるものとして行われ、2年生35名が受講しています。

山口県生まれの田中さんは穴粟市に来て5年あまり、外から見た穴粟市の魅力や歴史そして自然の素晴らしさを語られるとともに、「故郷に誇りを持って生きること」を力説されました。

また、自分のデイサービスで実践している経験から、地域のみんなが助け合う地域福祉の大切さを語りました。

授業は、1月19日(火)より週1回、5週にわたって行われ、後半では実際に現場で行われているような介護の実習も行われる予定です。

生徒たちは、田中さんの授業を受けて「老人ホームは何歳から入



「介護とは自立を促すこと」と熱弁の田中さん

れるんですか」「男性と女性ではどちらが介護しやすいですか」などの質問をしていました。

生活創造科では、今回の田中さん以外にも、多くの外部講師を招いたユニークな授業を行っています。

(山崎支部 阿曾秀樹)

いのちのみや

「一宮発」の地域福祉を!

一宮地域福祉推進委員会



一宮の福祉課題や取組みについて協議できる場として委員会は大変な役割を担っています

穴粟市社協で各支部に設置の地域福祉推進委員会では、地域住民や関係機関連携のもと、住民本位で進める福祉活動について、また、それぞれの社協支部の独自活動を具体化する場として協議を重ねています。

2月2日(火)に開催の委員会では、昨年度に市民の皆様から善意銀行に預託いただいた支部ごとの預託金額の約1割を、支部で独自に活用できる「支部活用払い出し」(一宮は70万円)の具体的な活用方法に

ついて協議しました。

協議の結果、災害時をはじめ、ふれあいサロンや喫茶などの自治会行事やイベント時でのケガ人の応急手当に必要なものとして「救急用品セット」を自治会数分購入することに決まりました。

しかし、予算に限りがあるため、今年度と来年度に購入することとし、今年度は一宮北部地域の20自治会に救急セットを配布します。

今後委員会では、一宮の特長を活かした福祉活動を進めていくために協議を重ねていきます。

(本部・一宮支部 波多野好則)



一宮町内の全自治会に配備する救急用品セット